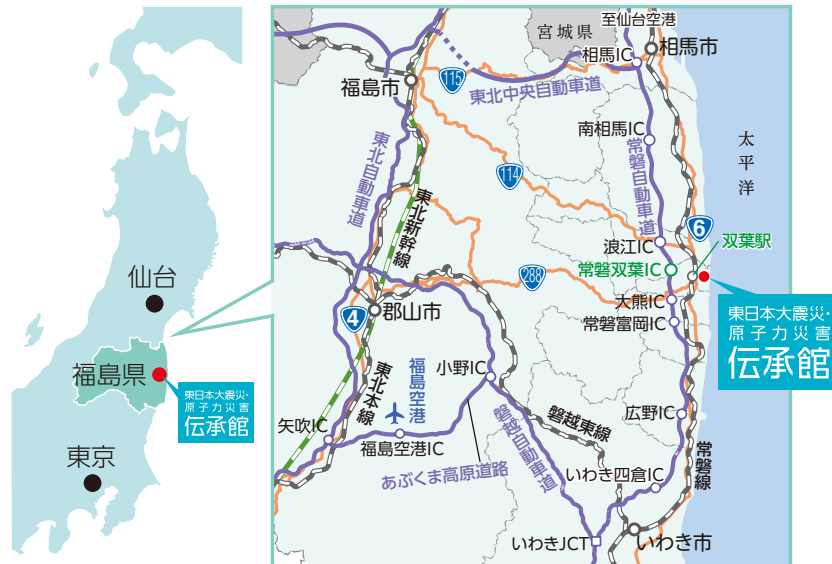


## ACCESS



電車

- 東京駅から双葉駅まで特急ひたち利用で約3時間10分
- 仙台駅から双葉駅まで特急ひたち利用で約1時間20分
- ※双葉駅から約2.7km。双葉駅発のシャトルバスが利用できます(約5分)。



自動車

- 常磐自動車道双葉ICから車で約12分(約7.5km)

### 時間の目安

#### 【高速・有料道路利用の場合】

- ・仙台市内から約2時間
- ・いわき市内から約1時間
- ・福島市内から約1時間30分

#### 【一般道利用の場合】

- ・郡山市内から約2時間



飛行機

- 福島空港から車で阿武隈高原道路を利用して約1時間40分
- 仙台空港から仙台空港アクセス線と常磐線乗り継ぎ最短約2時間20分(乗り継ぎ時間を含む)

## 東日本大震災・原子力災害伝承館

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39  
TEL 0240-23-4402 FAX 0240-23-4403

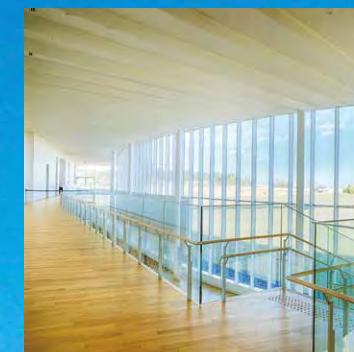
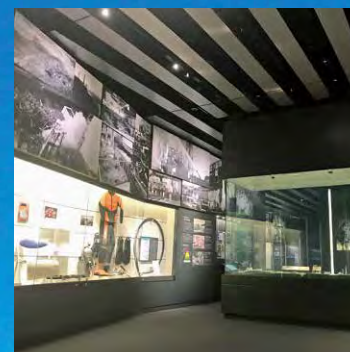
<https://www.fipo.or.jp/lore/>



東日本大震災・**伝承館**  
原子力災害

The Great East Japan  
Earthquake and Nuclear Disaster  
Memorial Museum

# 研究員募集

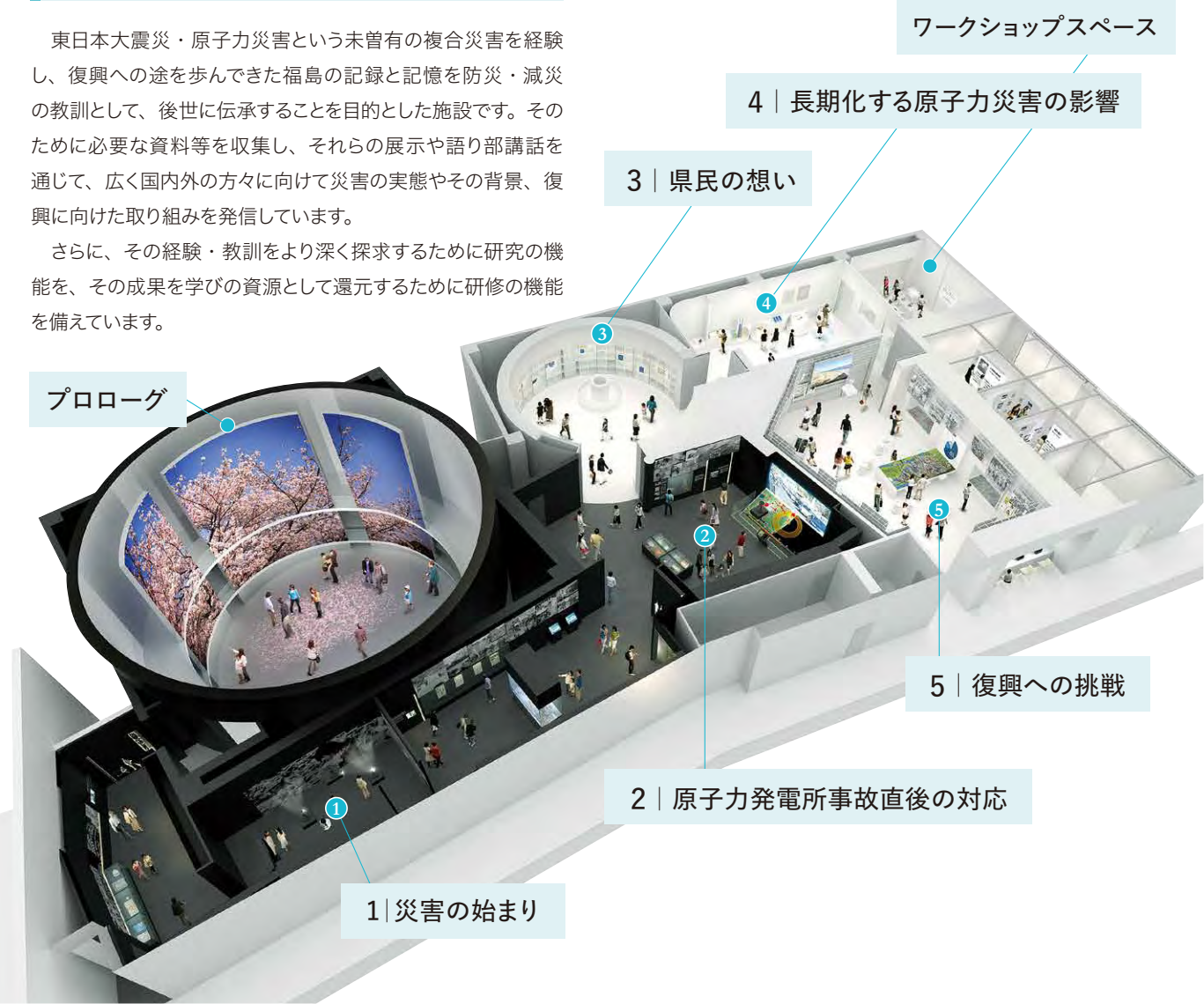


# 東日本大震災・原子力災害伝承館とは

## 何を目的とした施設か

東日本大震災・原子力災害という未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島記録と記憶を防災・減災の教訓として、後世に伝承することを目的とした施設です。そのために必要な資料等を収集し、それらの展示や語り部講話を通じて、広く国内外の方々に向けて災害の実態やその背景、復興に向けた取り組みを発信しています。

さらに、その経験・教訓をより深く探求するために研究の機能を、その成果を学びの資源として還元するために研修の機能を備えています。



## 伝承館周辺の震災関連スポット

**1 福島県復興祈念公園**  
福島県と国が連携し整備しており、令和2年9月20日から公園の一部が供用開始されています。



**2 諏訪神社**  
震災時には倒壊等の被害がありましたが、津波から身を守るため周辺住民が避難しました。



**3 震災遺構 浪江町立 請戸小学校**  
複合災害の脅威・教訓を後世に伝承するため、震災遺構として保存されています。



**4 大平山霊園**  
地区の共同墓地が津波により被害を受けたため整備され、浪江町東日本大震災慰霊碑が建立されています。

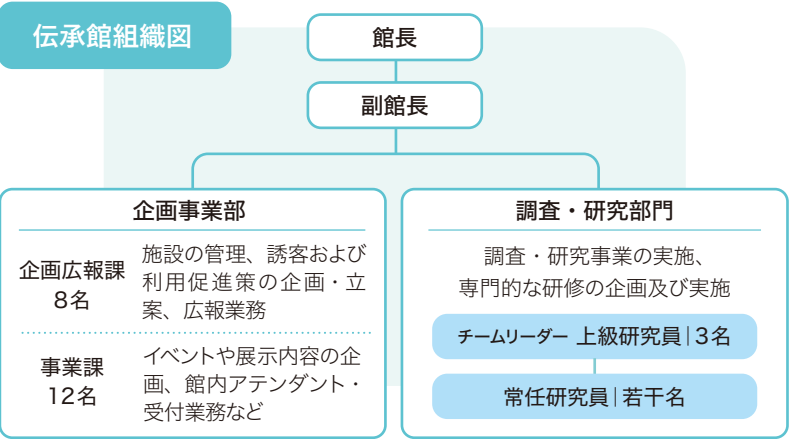
## 伝承館の基本理念

- 1 原子力災害と復興の記録や教訓の  
未来への継承・世界との共有
- 2 福島にしかない原子力災害の経験や  
教訓を生かす  
防災・減災
- 3 福島に心を寄せる人々や団体と連携し、  
地域コミュニティや文化・伝統の再生、  
復興を担う人材による  
復興の加速化への寄与

## 伝承館で実施する主要4事業の概要

|                                                               |                                                                              |
|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| <b>収集・保存</b><br>関連資料の収集と保存、収蔵証言等の記憶も残します。                     | <b>調査・研究</b><br>複合災害の教訓を生かし原子力災害研究や大規模災害・広域災害・複合災害研究の充実・強化と専門分野の人材の育成につなげます。 |
| <b>展示・プレゼンテーション</b><br>福島の「光と影」を伝え、今、そしてこれからの福島をプレゼンテーションします。 | <b>研修</b><br>参加者が行動するきっかけとなる原子力災害の経験に基づく研修プログラムを提供します。                       |

## 伝承館組織図



## Message



東日本大震災・原子力災害伝承館館長  
**高村 昇**

このたび伝承館では常任研究員を募集することになりました。研究者として私たちと一緒に、福島のこれまでとこれからを紐解いてみませんか？皆様の応募をお待ちしています。

## 調査・研究部門の体制

伝承館の調査・研究部門では、企画事業部と連携し組織的・計画的に研究や専門的な研修を推進します。それぞれの研究員に対しては館長・上級研究員がアドバイザーとなり、研究等のサポート・実績の管理を行います。

## 上級研究員



福井大学附属国際原子力工学研究所  
原子力災害・危機管理部門 部門長  
**安田 仲宏**

1969年岐阜県生まれ。大学では原子核や放射線について学び、博士号を取得。その後は、放射線医学総合研究所(放医研)にて、原子核反応の研究、放射線の可視化や低線量の影響を調べる研究開発に携わる。2012年4月より、福井大学附属国際原子力工学研究所の原子力災害・危機管理部門に赴任。現在は部門長を務め、敦賀市役所などと防災地域連携を進める活動を推進。



東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター  
准教授  
**関谷 直也**

1975年新潟県生まれ。(災害情報論、社会心理学)。1999年JCO臨界事故から研究を始め、大規模災害時の人々の心理、避難ほか原子力災害における社会的影響、原子力災害について研究。東京電力福島原子力発電所事故検証委員会政策・技術調査参事(政府事故調)、福島大学農学類客員准教授など。主著に『風評被害』(光文社)、『災害情報』(東京大学出版会)。



東京大学大学院情報学環  
准教授  
**開沼 博**

1984年福島県生まれ。これまで福島県への原発立地過程を通じた日本社会の戦後近代化についての歴史社会学的研究、震災・原子力災害後の復興・廃炉に関する諸分野(地域、科学技術、文化、メディア等)における変化・課題についての学際的研究等を継続。福島原発事故独立検証委員会(民間事故調)WGメンバー、檜葉町放射線健康管理委員会副委員長、ふくしまFM番組審議会委員等多数歴任。

# そもそもよくわからない！ 「伝承館の調査・研究事業」とは

## 調査・研究事業の目的

伝承館の調査・研究事業は、復興を担う人材の育成を行い、特定復興再生拠点の避難指示解除等、今後帰還が進む被災地の復興を加速させるとともに、今後発生することが否定できない国内外の災害に対する防災・減災に寄与することを目的に実施しています。



研究室の様子

収蔵庫の様子

## 研究員に進めてもらいたい活動、得てもらいたい知見

伝承館では、研究スペース・研究費用はもちろんのこと、収集した約26万点に及ぶ資料等、館長・上級研究員による指導、周辺の被災自治体や住民組織とのネットワークなど、東日本大震災・原子力災害研究を進めやすい環境を用意しており、これからその環境を強化していきます。

研究員には、この環境を活かして、将来に渡って東日本大震災・原子力災害研究のプロフェッショナル・トップランナーとして研究・教育を司るべく、他では決して得られない専門性・独自性を身につけ、研究実績を出していただきたいと考えています。

我こそはと思う方のご応募をお待ちしています。

世界史的事件たる東日本大震災・原子力災害。いまだ十分に研究成果が蓄積されているとはいえないその研究に携わること、後世に残る人類の歴史の一節を記述する作業そのものです。高い志を持つ方からのご応募をお待ちしています。



## 研究員の労働環境・条件について

### 常任研究員募集定員 若干名

#### ●任期

原則として3年間

(単年度契約、最長5年間まで延長の可能性あり)

#### ●給与・手当、休日、勤務時間

##### モデル年収

1年目 360万円～440万円程度

2年目 400万円～480万円程度

3年目 410万円～490万円程度

※博士課程修了者(経験年数0年)の場合  
※住居手当、通勤手当等の諸手当及び賞与を含む

週5日、週38時間45分の常勤となります。伝承館に滞在しながら研究・研修に従事することを基本とし、必要があれば館長や上級研究員と相談しながら、周辺地域での調査等を進めていただきます。

#### ●研究員の業務内容について

##### 研究

##### 1 | 伝承館として進める研究

館長や上級研究員(非常勤)と協力しながら設定したテーマに沿って進めていただく研究です。これに関連して、伝承館と他研究機関や関係国際機関、学会等との連携に関わる業務も担っていただきます。

##### 2 | 伝承館の目的を踏まえ、個人の関心や専門領域を活かした研究

これまで福島や災害に関することを研究テーマにしてきた場合には、その延長で研究を進めていただくことも差し支えありません。新たに取り組む場合にも、伝承館に拠点を置いていることを生かし、他ではできないような研究を進めることが望まれます。

##### 研修

研究成果に基づいて、自治体職員等に向けて行われる専門研修プログラムの構築や実施に関わる業務を担っていただきます。

伝承館が進めるべき研究、個人のキャリアアップにつながる研究、伝承館が行う研修の3つをバランスよく進められるよう、館長を始め、上級研究員、事務スタッフが皆さんの活動を支えます。次世代につなげる活動を一緒に進めましょう。



# 採用後の生活について

## 伝承館スタッフの1日に密着！

研究活動が中心となる研究員の1日とは少し異なりますが、各スタッフのある1日をご紹介します。

### ●スタッフA(イベントの企画運営)



出社後、全員で1日の流れを確認し合う打合せを行います。打合せ後はメールチェックをします。



外部の業者さんとイベントの打合せ。事前準備やスケジュールの確認等を行います。



昼食後、この日は当番制になっている展示の導入にあたるシアターへのお客様誘導を行います。



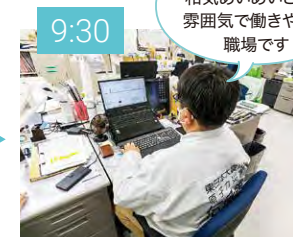
物販の在庫チェックを行います。実数とレジの売上を合わせて、過不足がないかも確認します。

17:15の定時に間に合うように業務をこなしていきます

### ●スタッフB(学芸員)

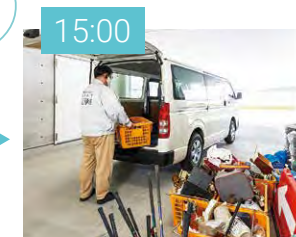


始業開始の8:30からは、展示物の点検や機器の動作確認などを行います。



メールチェックのほか、収集した資料の権利処理、物品購入の事務処理といった事務作業を行います。

スタッフみんなが和気あいあいとした雰囲気でも働きやすい職場です



この日の午後は資料提供者を訪問し、資料に関してヒアリング後、貴重な資料を伝承館へ搬入します。



搬入した資料のサイズを測ったり、記録用に写真撮影をしたり、ヒアリング内容をまとめたりします。

## 双葉郡の生活 教えて！

## Q&A

### Q 休日は何をしていますか？

A 自宅で洗濯や掃除、食材の買い出しに出かけます。浪江町には道の駅やスーパーもあるので買い物にも困りません。



### Q 自家用車がないと生活できませんか？

A JR常磐線双葉駅から伝承館前までは毎日シャトルバスが運行しています。定期券も販売しており、通勤の利用も可能です。



### Q 近くのおすすめスポットを教えてください。

A いわき市にある大型のショッピングモールや、海が眺望できる檜葉町の天神岬公園はリフレッシュにぴったりです♪



### Q 双葉郡の魅力を教えてください。

A 伝承館周辺は産業拠点として整備が進められており、景色がどんどん変わって行く様子を間近で見ることができます。海沿いの伸び伸びとした生活も魅力です。



双葉郡は多くの複雑な課題を抱えながらも、変化の真ただ中にあります。大規模・広域・複合災害の現場、復興の現場を肌で体感し、多くの人の声に耳を傾け、地に足を付けて、スケールの大きな研究を行ってください。



# 採用後の業務内容について



Q 実際に伝承館を訪問しましたが、「展示」と研究員の活動のつながりが見えてきません…。

A 展示やその資料の収集・管理については専門のスタッフがいますので、直接研究員が展示や資料の収集・管理に関わったり、その解説等の業務に普段からつくことはありません。ただし、研究の成果が展示に反映されていくこと、また、研修中での展示の活用については、研究員に期待されることです。



Q 伝承館の研究員の職務は大学研究者に近いものか、シンクタンクの研究員に近いものか、どちらでしょうか

A その2つで言えば、クライアントから与えられた問いを解くことが中心の「シンクタンクの研究員」よりも、自分自身で問いを設定して解く「大学研究者」寄りの研究職です。伝承館として進める研究はあるものの、一定の枠組みの中で、自ら問いを設定してそれを解くことを目指していただきます。伝承館の目的を踏まえた上での、個人の関心や専門領域を活かした研究にも取り組んでいただき、その中で独創性のある研究が生まれることも望まれます。

Q 外部の研究者との交流の機会はありますか。

A 伝承館では、関係国際機関、学会、外部の研究機関と連携しながら研究を進めています。その中で、様々な外部研究者との交流が生まれると思います。



Q 研究員の任務完了後は、どのようなポストにつけるのでしょうか。

A 大学や研究機関にて、ここで学んだ知見を活かしていただければと思います。もちろん、研究員の任期終了後に研究職につけるとは断言はできませんが、伝承館で研究員として研鑽を積むことは、あなたに他場では得られない専門性・独自性を与えるものです。東日本大震災・原子力災害という研究対象には、人類が経験した世界史的な危機として様々な学問領域において活かす教訓が眠っています。ここに眠る研究の原石を掘り出す力、それを磨き上げ、世に示す経験をもつことは、自分が望む研究キャリアを切り拓く上で大きな武器になるでしょう。

# 採用試験について

Q 応募に必要な学位や研究業績などがありますか。

A 修士課程修了(または見込み)が最低条件で、専門分野は問いません。もちろん博士課程修了・在籍中の方も応募可能です。研究員には、将来にわたって東日本大震災や原子力災害に関する研究・教育に携わっていくことが期待されていますので、関連した論文、学会発表等の実績が複数あることや、福島に関する知見を持ち、研究や教育に携わった実績があると有利です。

Q 選考では何が重視されますか。

A 東日本大震災や原子力災害に関して、被災地の中に身を浸しながら新規性・独自性のある研究成果を継続的に産み出し、研修を充実させる業務にも積極的に取り組めるのか。また、将来に渡り東日本大震災・原子力災害研究のトップランナーとして、研究・教育を司る意欲があり、それを裏付ける基礎的研究や教育能力があるか。この2点を重視しています。



伝承館は2020年9月にオープンしたばかりです。皆さんの研究が、伝承館の新たな歴史を刻み、福島の経験、教訓を国内外に伝えていくための貴重な知見となることを期待しています。ご不明な点がありましたら、お気軽にご相談ください。皆さんの応募をお待ちしています！

Q 福島での研究実績があることは必須条件ですか。

A 現時点での福島や災害についての詳細な知識や専門性の多寡、研究実績の有無は問いません。ただし採用後は、東日本大震災や原子力災害に関する基礎的知見を速やかに吸収し、自身の専門性に結びつけて研究業績を生産する能力と意欲は欠かせません。

Q 専攻してきた学問分野は選考に影響がありますか。

A 人文社会科学を基本とし、どのような分野からでも応募可能です。社会学、心理学、政治学、経済学、教育学、工学、リスク論、コミュニケーション論、自然災害科学、防災学、環境解析学、環境保全学、放射線科学、化学物質影響学、保健医療学はじめ多様な学問分野の方々にご応募いただけます。原子力災害、福島に関係する研究実績がある場合には、当然それを考慮して選考します。また、研究員には当館の上級研究員(非常勤)や、国内外の研究機関や研究者と協力し、社会科学的な研究を行っていただきますので、それに必要な能力や経験が一定程度ある方が有利です。

Q 採用試験に関して疑問や不安を事前に相談する窓口はありますか。

A 東日本大震災・原子力災害伝承館 事業課が受付の窓口になりますので、お気軽にお問合せください。

東日本大震災・原子力災害伝承館 事業課  
☎0240-23-4405  
✉ archive@fipo.or.jp